

# 千駄木小学校 5年 図工「シーサー」

## 授業のねらい

- 主題をもつことによって、自分や身近な人のことを考える。
- 「シーサー」や「狛犬」といった、古来から日本各地にある身近な立体を鑑賞することによって自分の見方を広げる。
- 粘土の可塑性を活用して、手でつくるよさを味わい、工夫して立体に表す。

## I C T 活用の工夫

- 作品を完成させた児童から、紹介カード（名前、題名、工夫した点）とシーサーの写真（一番よいところ、前、後ろなど）をミライシードのオクリンクに提出し、友達の作品を鑑賞した。



## 児童の様子

- 紹介カードにイラストや写真を取り込んで説明するなど、工夫したり、写真を多く撮影したりする意欲的な児童もいた。
- 題名や工夫点を書く際には、紙よりも多くの情報を紹介カードに入力していた。
- 友達の作品をたくさん見ることができて嬉しそうだった。友達のカードを見て、作り直している児童もいた。

## 成果

- 席が遠い児童の作品も移動せずに鑑賞できた。短時間でたくさんの友達の作品を見ることができた。
- 児童が授業後（家に帰ってから）も鑑賞することができた。
- つくり終えていない児童が、電子黒板上ですぐに分かるため、個別の支援がしやすい。
- 授業内で撮った写真は、記録として保管でき、評価に役立った。

## 課題

- 制作に時間をかけたい児童は、カードと作品を出すだけで終わってしまった。家でも鑑賞できることを伝える必要があった。